

Webで収支や労働時間を試算

北海道農業研究センターなど FAPPS・DB本格運用へ

農研機構北海道農業研究センターは九州大学、岩手県農業研究センターと共同研究する「FAPPS・DB（ファップスディービー）」の本格運用を始める。このシステムはWeb上で作付けを予定する作物の栽培体系を選ぶと、経営収支や労働時間などが試算できるもの。営農計画の作成に役立つと期待されている。

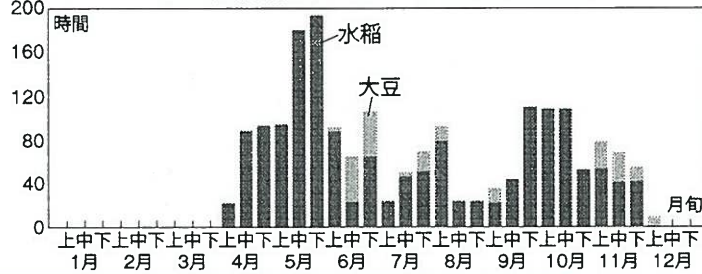
データ、三つの情報で構成

このシステムの基本となるのは農業技術体系データベース。データは▽資材購入費や農産物販売額などの価格▽品種や規模に応じた栽培技術▽農業機械の種類や使用時間など機械作業——の三つの情報から構成される。各県がまとめる技術体系のほか、農業者自身が自らの経営内容を入力

図1:技術体系の例。同じ作物にも複数の体系がある

技術体系例
水稻(ひとめぼれ・あきたこまち、30a区画・移植、5ha規模、540kg/10a、岩手:北上川流域)
水稻(ひとめぼれ・あきたこまち、大区画・移植、15ha規模、540kg/10a、岩手:北上川中・下流域)
ピーマン(京ゆたか・京鈴、雨よけハウス、10a規模、8000kg、岩手:県内)

図2:試算結果のイメージ(旬別労働時間)



組み合わせ選び 作付面積を入力

グラフで表示 分かりやすい

課題は、データの入力量が多いこと。北海道農研ICT農業グループの佐藤正衛上級研究員は「データのアップデートを簡単にできるように改良を重ね、技術体系のデータ量を増やしていきたい」と話す。

期別の労働時間、キャッシュフローもグラフで表示され、視覚的にも分かりやすい。データベースに登録のある他県の技術体系や他の農業者の体系をもとに試算することもできる。

データベースに商用の農業生産管理システムのデータを交換して入力できるよう研究も進めている。農水省が来年度実施するスマート農業加速化実証プロジェクトで得られた圃場のデータも取り入れる予定だ。各地で無数に試験されている栽培体系がデータとして共有することも期待される。

簡単操作で何度でも無料で

岩手県の胆沢平野土地改良区ではすでに運用が始まっている。農業者が圃場整備事業における営農ビジョンを検討する際、簡単操作で何度でも試算できると好評だ。同改良区ではデータベースに約80の体系が登録され、ホームページ上からだれでも自由に活用することができる。水稻のほか大豆や麦、WCSなどの水田作物に加え、ピーマンやア

スパラガスなどの畑作物も登録している。データの入力は地元農協の資材費や作物の販売価格など、県が策定する作物別の技術体系を参考に改良区職員が修正登録した。

同改良区胆沢平野版農業クラウド推進係の鈴木明日香係長は「無料で使えるのは大きい。今後、他地域の情報が増えればより参考になる」と話す。